

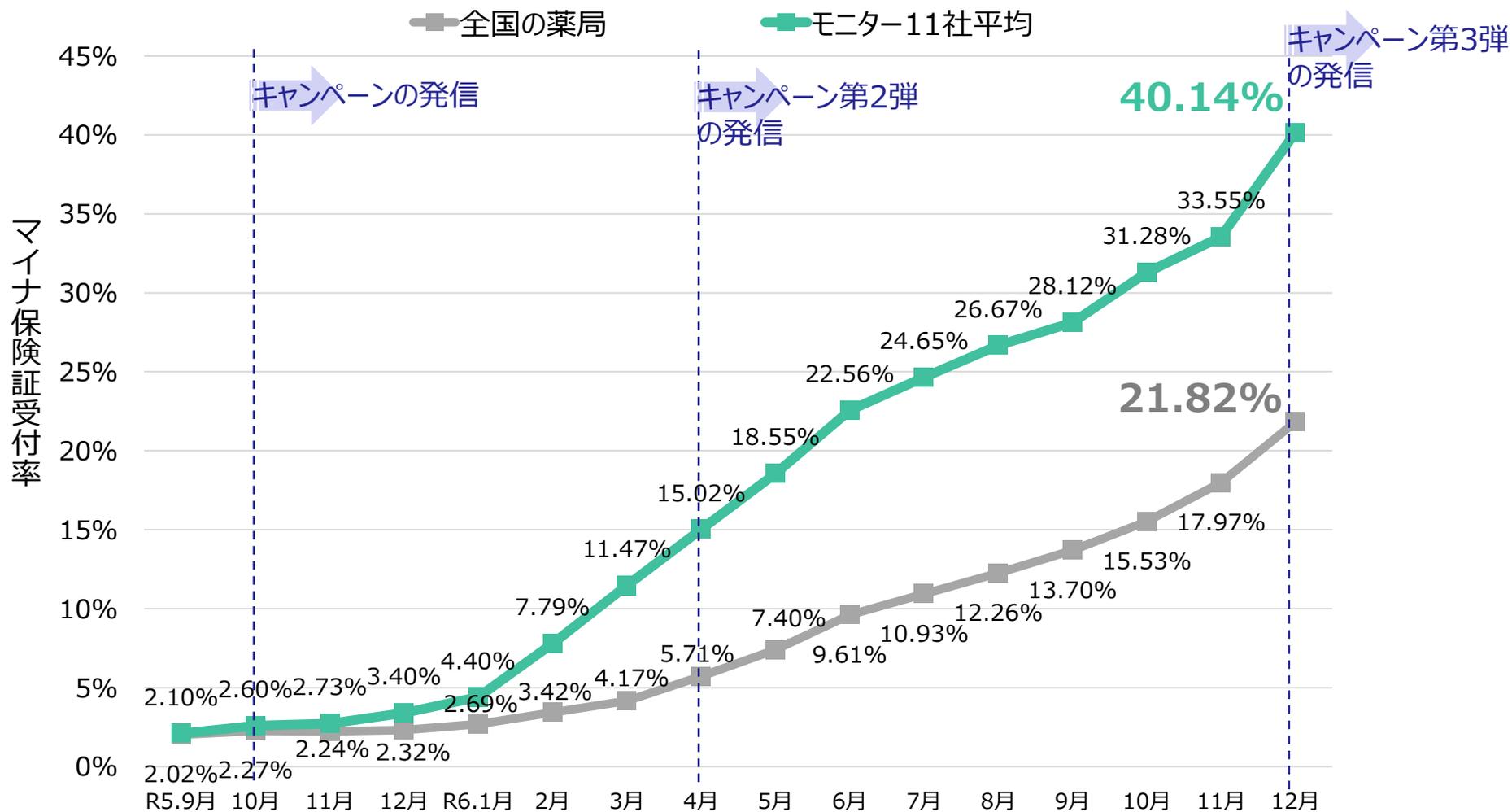
マイナ保険証利用率及び運用に係る要望

一般社団法人 日本保険薬局協会
デジタル推進委員会

2025年2月

モニター11社 マイナ保険証受付率の推移

NPhA加盟11社においてマイナ保険証受付率のモニタリングを実施しており、11社の平均値は全国の薬局平均の2倍の実績となっている。



▶ 全国：厚労省資料より

▶ モニター：厚生労働省保険局医療介護連携政策課保険データ企画室と連携し「受付回数に対するマイナンバーカード利用割合」のモニタリングを実施（11社参加）

医療DX推進に向けたアクション

医療DX推進においては、患者にマイナ保険証の利便性や、医療DXがもたらす薬物治療の質及び安全性向上について、より深く理解いただくことが重要であり、薬局においてそのための取り組みが求められる。

✓ 引き続きマイナンバーカード利用の啓発をお願いします

- 患者への声かけと、チラシ配布等による啓発活動を継続すること
- 利用されない理由に応じて、説明や相談に対応をすること
- 患者一人ひとりへの声かけ状況をスタッフ間で共有し、薬局全体として推進すること
- 薬局待合室での啓発動画配信、医療機関や地域行政との連携が効果的

✓ 必ず調剤結果の登録をお願いします

- 電子処方箋受付体制を整備すること
- 紙の処方箋応需の場合を含めて、調剤結果を速やかに電子処方箋管理サービスへ登録すること
- 調剤情報が充実するほど、薬物治療の質及び安全性向上につながることを認識すること

✓ 情報を活用した指導をお願いします

- 患者同意により、薬物治療の質及び安全性向上につながることの説明に努めること
- 閲覧情報（診療、薬剤、健診）、重複・併用禁忌チェック結果の確認を基本業務とすること
- 薬歴やお薬手帳の情報と突合し、服薬指導の質や安全性向上のために活用すること
- より効果的、効率的に情報が活用されるよう最適な業務フローを追求すること
- 閲覧情報を必要に応じて患者と一緒に確認すること
- 情報活用による好事例やプレアボイド事例を記録し、スタッフ間、薬局間で共有すること

マイナ保険証の運用に係る要望

患者の負担軽減や、必要時に最新情報へアクセスを可能とする観点から、薬局受付の際のスマホ活用、及び患者同意の効力期間に係る運用変更を要望する。

課題

マイナ保険証受付率が50%を超えるような薬局も増えている。マイナ保険証受付実績が高い薬局においては、マイナ保険証受付待ちが生じており、患者の利便性が損なわれている。患者の負担軽減の観点から対策を講じる必要がある。

上記に加えて、マイナ保険証受付による情報閲覧の患者同意の効力はその日に限定されており、例えば、別日に電話での相談応需の際や、服用期間中フォローアップ時には情報を確認できない。医療DXのより効果的な活用という観点から対策を講じる必要がある。

改善策（要望）

ドライブスルー形式の受付の場合は、**マイナ在宅受付Web等**を活用することが認められている。外来診療患者の薬局**通常受付の際も活用**できるように要望する。

患者の負担軽減だけでなく、必要時の情報アクセスを可能としいつでも最新情報に基づいた指導を受けられるよう、在宅訪問と同様に、通常外来の患者に対して、**3か月間の同意効力期間**を設ける（例：継続来局の場合は同意継続、ただし患者が毎回の受付＆同意取得を希望する場合は除く）といった運用変更を要望する。

再掲

医療DX推進における課題及び要望

一般社団法人 日本保険薬局協会
デジタル推進委員会

2024年5月

医療DX推進における要望

マイナ保険証の運用について

患者の負担軽減や、必要時に最新情報へアクセスを可能とする観点から、薬局受付の際のスマホ活用、及び患者同意の効力期間に係る運用変更を要望する。

電子処方箋受付体制の整備と運用について

医療DXの継続的な推進、患者に提供されるサービスの質向上、及び安全な薬物治療を提供する観点から、厚生労働省基準である用法コード活用の徹底と、医療DX推進における投資や運用費等への継続的な支援を要望する。

薬局システムについて

レセコン－電子薬歴等のシステム間のデータ連携、医療機関と薬局の情報連携、統計解析等、薬物治療の質向上に貢献する機能においては、システムによらず広く実装されることが望ましいことから、標準仕様、標準フォーマットが導入されることを要望する。

PHRについて

情報の一元管理と情報連携、持続可能な運用とするため、お薬手帳等の情報も含め、健康・医療に係る情報をマイナポータルに集約、蓄積し、患者と医療提供者間で共有できるようシステム及び運用の改善を要望する。

マイナ保険証の運用について

患者の負担軽減や、必要時に最新情報へアクセスを可能とする観点から、薬局受付の際のスマホ活用、及び患者同意の効力期間に係る運用変更を要望する。

課題及び改善点

マイナ保険証受付率が高い薬局においては、マイナ保険証受付待ちが生じている。今後、マイナ保険証利用の普及が見込まれること、また、リフィル等の機能追加により顔認証付きカードリーダーの操作時間も長くなる可能性があること等、先を見通すと、患者の負担軽減の観点から対策を講じる必要がある。

マイナ保険証受付による情報閲覧の患者同意の効力はその日に限定されており、例えば、別日に電話での相談応需の際や、服用期間中フォローアップ時には情報を確認できない。

改善策（要望）

スマホを活用して、マイナ在宅受付Webの仕組みを外来診療患者の薬局受付の際も活用できるよう要望する。

患者の負担軽減だけでなく、必要時の情報アクセスを可能としいつでも最新情報に基づいた指導を受けられるよう、その都度の同意取得から包括的同意やオプトアウト等を組み合わせた運用変更を要望する。

電子処方箋受付体制の整備と運用について

医療DXの継続的な推進、患者に提供されるサービスの質向上、及び安全な薬物治療を提供する観点から、厚生労働省基準である用法コード活用の徹底と、投資や運用費等への継続的な支援を要望する。

課題及び改善点

薬局において電子処方箋データを受け付けた際に、レセコンに用法が正しく取り込まれていないケースがあり、その多くは用法コードに起因するものである。紙処方箋の運用と比べ、レセコンに取り込まれた用法が正しいことを確認することはより困難であり、安全性の観点で大きな課題である。

電子処方箋の受付体制を整備、運用していくには、システムやネットワークへの追加投資が必要であり、その負担額は、各システムや薬局の環境によって差はあるものの、現時点で薬局ごとにイニシャル100万円以上、ランニング月1万円以上のコスト増となっている。具体的な投資として、ネットワーク構築、オンライン資格確認等システム導入、顔認証付きカードリーダー、資格確認専用端末、電子処方箋受付ソフト、医療扶助ソフト、訪問・オンライン診療ソフト、訪問用端末、リフィル・重複投薬等チェック口頭同意ソフト、HPKIカードなどがあげられる。

改善策（要望）

電子処方箋の普及に際して、安全な薬物治療を提供する観点から電子処方箋用法、JAMI標準用法、レセ電用法など、原則、厚生労働省基準である用法コードを活用することを徹底いただきたい。

医療DXの継続的な推進、患者に提供されるサービスの質向上のために、電子処方箋受付体制の整備、運用など、医療DX推進における投資や運用費等に関して、薬局現場の状況を鑑みて継続的な支援を要望する。

薬局システムについて

レセコン－電子薬歴等のシステム間のデータ連携、医療機関と薬局の情報連携、統計解析等、薬物治療の質向上に貢献することが期待できる機能においては、システムによらず広く実装されることが望ましいことから、標準仕様、標準フォーマットが導入されることを要望する。

課題及び改善点

薬局のシステムによる差はあるが、オンライン資格確認、電子処方箋に伴う情報がレセコンでしか閲覧できないケースがある。

閲覧された情報を手入力で電子薬歴に転記、重複等は情報閲覧画面を目視で確認といった状況である。マイナ保険証受付や電子処方箋が普及し、情報が得られる件数が増えた際には、システム的な情報処理がなければ、情報が十分に活用できないことが懸念される。

電子薬歴には患者ごとの薬物治療の経過、指導内容、指導による経過等の変動などの情報が蓄積されている。医療機関との情報連携に加え、薬物治療及び薬剤師介入の質向上といった臨床薬学の発展のために統計解析機能が望まれるが、標準仕様は存在しない。

レセコン、電子薬歴の他に、電子お薬手帳、服用期間中フォローアップ、オンライン服薬指導等のシステム導入が進んでおり、システム間の患者情報・医薬品情報等のデータ連携が、業務の効率化に不可欠な状況となっている。

改善策（要望）

レセコン－電子薬歴等のシステム間のデータ連携、医療機関と薬局の情報連携、統計解析などは、今後の薬物治療の質向上に貢献することが多いに期待できることから将来的に実装すべき機能である。

システムごとの差別化、付加価値提供は今後も望まれるが、このような機能においては、システムによらず広く実装されることが望ましいことから、標準仕様、標準フォーマットが導入されることを要望する。



PHRについて

情報の一元管理と情報連携、持続可能な運用とするため、お薬手帳等の情報も含め、健康・医療に係る情報をマイナポータルに集約、蓄積し、患者と医療提供者間で共有できるようシステム及び運用の改善を要望する。

課題及び改善点

オンライン資格確認等システムとマイナポータルの活用により、患者、医療機関、薬局がそれぞれの立場で、同じ情報にアクセスできる仕組みが実現し、情報連携において革新的な進歩をもたらしている。ただし、マイナポータルには、お薬手帳に記載されているOTCや健康食品、副作用歴等の情報が記録されていないため、マイナポータルだけでは一元管理とはならず、電子お薬手帳、地域医療情報連携ネットワーク等、複数の仕組みを提供し運用しなければならない。



改善策（要望）

情報の一元管理と確実な情報連携、そして持続可能な運用を実現するため、お薬手帳等に記載されている情報も含め、セルフケアや医療提供に必要な患者の健康・医療に係る情報をマイナポータルに集約、蓄積し、患者と医療提供者間で共有できるようシステム及び運用の改善を要望する。



Nippon Pharmacy Association

日本保険薬局協会